

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

長野県

（地域における現状・課題）

- 本県には77の市町村があり、地域によって様々な実情があるため、進捗状況も様々である。
- 地域によって運営団体・実施主体や指導者数に大きな偏りがある。
- 中学校が1校の町村がほとんどで、単独の町村では活動の選択肢を広げることが困難である。

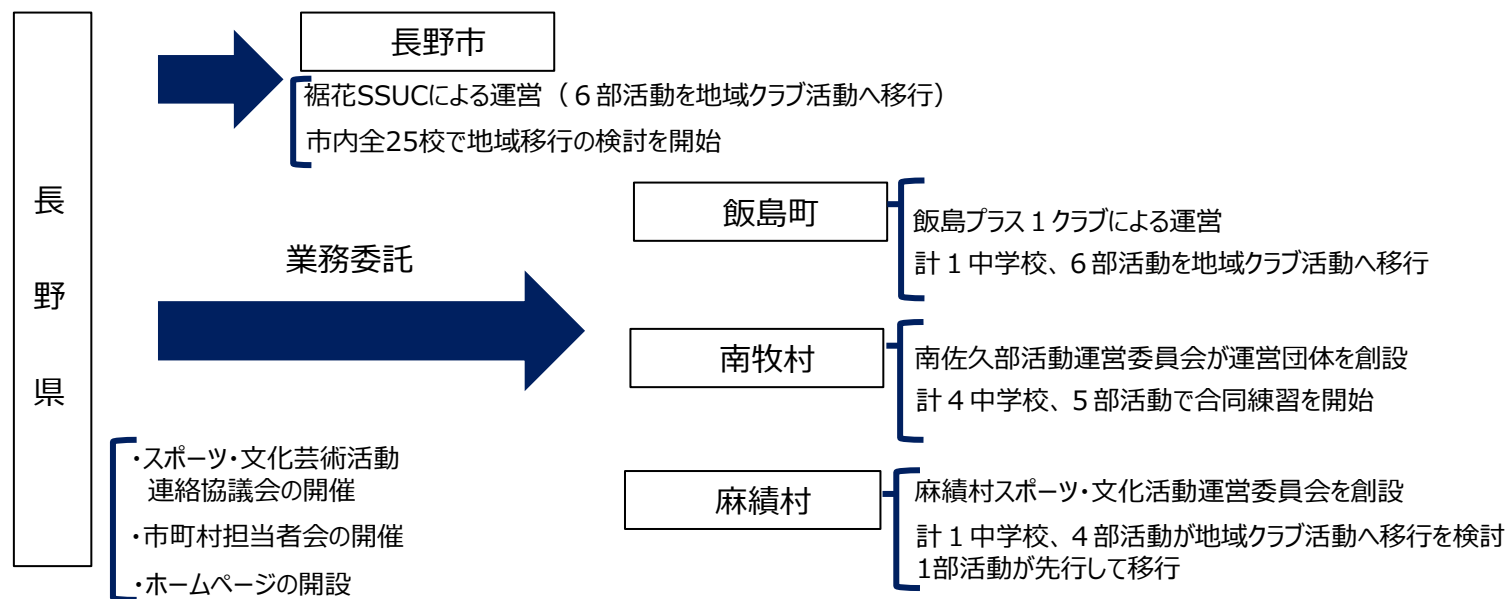
（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

- 市町村担当者会の開催（年2回）
- 県協議会の設置
- ホームページの開設など

（実践研究の成果）

- 総合型地域スポーツの創設による実施主体の確保。有資格者の確保
- 6町村4中学校による組織の創設
- 近隣市町村との連携による指導者の確保。社会体育との連携
- 休日の地域クラブ活動における参加生徒数や指導者数ごとの謝金と会費の目安を試算

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

長野市

（地域における現状・課題）

- ・競技の専門性をより高めたいと考える児童・生徒の受け皿となる組織づくりの必要性がある。
- ・近隣の小・中学校と連携し、学校単位の枠を越えた拠点となる地域クラブの運営組織の構築が必要である。
- ・中山間地の小規模校で希望する種目がない生徒等も参加できる組織づくりにより、通学区に関係なく、やりたい種目を自ら選択できる活動環境の構築が必要である。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：裾花スキルアップクラブ（裾花SSUC）

活動場所：長野市立裾花中学校 校庭／体育館／武道場

指導者：地域指導者、指導を希望する教職員

移動手段：徒歩、自転車、自家用車による送迎

責任主体：裾花中学校スキルアップクラブ（裾花SSUC）

活動種目：バレーボール、バスケットボール、サッカー、剣道

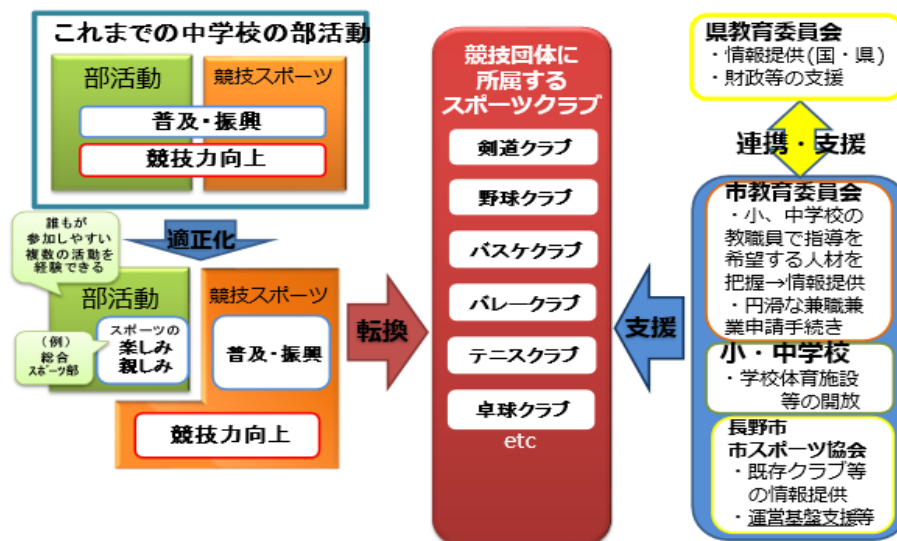
会費等：年間500円～10,000円 ※種目毎に異なる

保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ・地域のスポーツ指導者（有資格者）の確保ができた種目が新たにクラブに加盟し、活動を開始した。
- ・事務局業務を明確化し、事務局の役割を運営委員会の開催、活動計画の管理と会場の割り振り等とし、教職員以外が事務局を担う体制を整備に努めた。
- ・市が行っているスポーツ競技団体や総合型地域スポーツクラブへの支援策の活用や学校体育施設の優先利用等をができるよう行政と連携を始めた。
- ・地域の住民自治協議会や応援企業、PTA会員等からの指導者発掘の仕組みについて研究を始めた。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

飯島町

（地域における現状・課題）

少子化により団体活動が難しくなっている。とくにチームスポーツについてはチームが組めな状況がでてきている。生徒数の減少にともなう教師数の減により、顧問の配置も十分にできなくなる問題もあり、中学校では部活動数を減らすかどうか検討がされてきた。その中で町単独で考えるのではなく、近隣市町村と協力し広域で団体活動が行うことができないか協議が始まっている。それぞれの活動に必要な指導者の確保、指導報酬や移動にかかる費用の確保、団体を運営する組織や体制等、課題は山積みである。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：飯島町スポーツ連絡協議会（少年スポーツ団体連絡協議会）
活動場所：飯島中学校体育館、飯島体育館、飯島中学校校庭 ほか
指導者：地域指導者（兼職兼業含む）
移動手段：徒歩、保護者の送迎 ほか

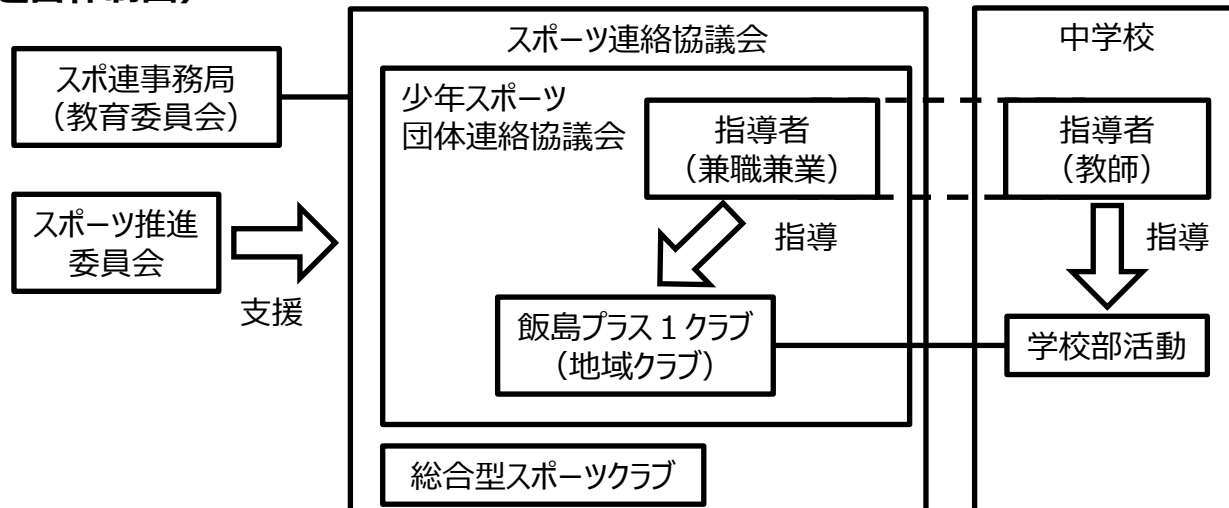
責任主体：飯島町スポーツ連絡協議会（少年スポーツ団体連絡協議会）
活動種目：野球、バレーボール、サッカー、ソフトテニス
会費等：なし
保険：生徒800円 指導者1,850円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

活動種目を減らさずに子どもたちが活動できる体制づくりを進めることができた。持続可能な体制づくりのひとつのモデルを検討することができたが、状況が変化する中でさらに将来にわたって持続できる体制づくりを考えていく必要がでてきた。

兼職兼業の地域指導者によって活動を維持することができたが、教師が「指導しない」という選択ができる環境づくりも必要である。

（運営体制図）



社会体育団体により組織されている飯島町スポーツ連絡協議会の中にある少年スポーツ団体連絡協議会が母体となって受け皿となる団体（飯島プラス1クラブ）を設置した。

教師が兼職兼業により地域指導者となり、地域クラブの指導が可能になる。教師の兼職兼業に頼る体制は異動にともない指導者が不在になったり、指導の質の低下につながったりする。

子どもの希望する活動が行える場を確保し、その体制を持続可能なものにしていく必要がある。地元で地域指導者を発掘すること、町だけでなく広域で連携し、子どもの活動を保証していく仕組みづくりが求められている。

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

長野県 麻績村

（地域における現状・課題）

麻績村は、人口2,500人ほどの山間部で、村立の中学校1校は少子化による生徒数の減少により、部活数も少なく生徒が選択できるものも限られている。また近年は部活動に参加する生徒も減少傾向である。

加えて中学校単独で活動できる部活が少なく、合同部活を組織する学校も年度で変わってきているものもあり、練習や移動の際の保護者の負担も大きい。指導者においても、就業している方が多く平日の部活動の活動時間での指導が難しい状況である。

今後の地域移行に向けては、総合型スポーツクラブのような組織が存在しないため、持続可能なスポーツ環境の構築を図るために、受け皿となる組織の構築とともに、指導者の確保が大きな課題となっている。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

地域移行に向けた村の基本方針を次の通り定めた。

→「学校部活の今後の方向を踏まえ、麻績村としては土日のみならず平日も含め、社会体育として地域で受け入れる方針とし、可能なものから進めていく」あわせて同じ課題を共有する近隣の村との情報共有・連携を深め、広域を「地域」としてとらえ、受入体制の整備を行なう。

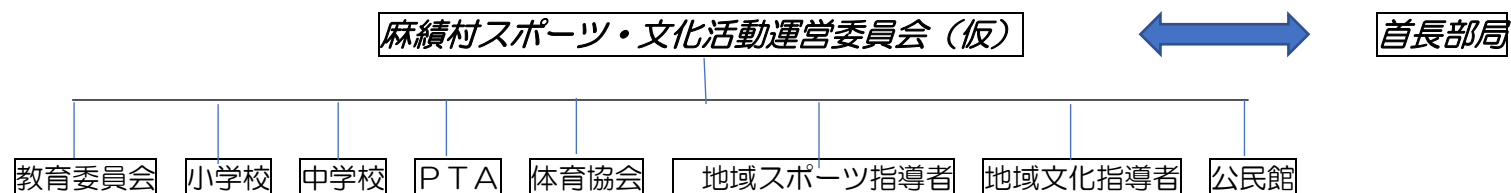
（実践研究の成果）

地域移行にあたり、「まず休日だけ」ではなく、学校部活から切り離し受入が可能なものから社会体育とし移行を目指すという方針を定めたことは、今後の大きな目的となった。

従来行われてきた社会体育としての活動が「村」としての直轄的な取組になることへの期待感が大きくなった。

同じ課題を持ちながらも、単村での課題解決を行ってきた近隣村と情報共有し、連携を深めることの意識が共有されたことは今後の広域連携に向けて大きな成果となった。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

南牧村

（地域における現状・課題）

南牧中学校には、現在7つの部活動があるが、ここ数年、少子化に伴い団体種目が競技人数に達しないため、合同チームを組まざるを得ない状況である。教職員数の減により、副顧問が置けない、専門外の種目の指導をしなければならない等の教員の負担も増えている。また、やりたい種目の部活がないため、部活に入らない生徒も増えてきている。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：南牧村教育委員会（南佐久郡6町村と連携）

活動場所：●南牧村中央公民館 ●佐久穂町立佐久穂中学校
●小海町北相木村南相木村組合立小海中学校

指導者：地域指導者、学校教職員（兼職兼業）

移動手段：徒歩、JR、地域の公共バス、保護者送迎

責任主体：南牧村教育委員会

活動種目：卓球・女子バスケットボール・
男子バスケットボール・サッカー

会費等：なし

保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

・南佐久6町村が連携し、生徒がやりたいスポーツができる環境づくりの基盤となる組織（南佐久郡部活動運営委員会）ができた。南佐久郡内の各中学校と教育委員会をつなぐコーディネーター役を南牧村教委が担ったことで、スムーズに連携できた。

・各中学校で単独では成立しない種目から合同化を図り、地域クラブとして活動していく道筋ができた。

（運営体制図）

